

調教

娼婦

全24ページ

しかし身
いった二日



人間に害を為す
『淫魔』

凶悪な存在に唯一
対抗できるのが
『退魔巫女』である



突出した存在



その中でも…

それが
黒桂咲月である

く
〜

久方ぶりの酒は
染みるのお〜♪



それで…

次の依頼とは
なんじや葵



…ほう

珍しいのう

討伐でなく
潜入とは



潜入場所は
『特区』です

ああ、あそこか

ええ、治外法権の
あそこです



潜入捜査です

退魔巫女
神薙 葵

本来であれば師匠のお手を
煩わせるような案件では
ないんですが……

あの『特区』は我々ですら
全容を把握できていません

どれだけの上級淫魔が
存在しているのか……

そしてどんな社会形成が
成されているのか

問題は先に潜入した
娘たちなんです

潜入してからの
報告が皆無

特区の中でなにか
問題が発生したとみて
間違いないでしょう

その安否確認も任務の一つ
つまり実力者でなければ
依頼できなかったのです

それでわしに
白羽の矢が立った
わけか

しかしじゃとすると
問題があるぞ

……？

わし一人で
潰してしまうかもものう

淫魔の社会
形成自体

ま、安心せい
請け負うからには
徹底的じゃ

だ、めじゃっ
全然っ抗えんっ

ぜ、んぶっ
快感に埋めつく
されてっ

わ、わしがっ
こんなっ
陥れられる、な、んてっ





しかし大した
問題ではない

一流の退魔師が上級淫魔を
欺くために夜伽の術を会得
していることは珍しいこと
ではないからだ



わしにも多少の
心得があったものの

考えが大甘
だった




わしが潜入したのは
ただの娼婦として
ではなかった

元はと言えば戦闘に特化した
わしが娼婦として潜入というのが
無理難題だったんじゃない

あの馬鹿弟子め

こういうことは
あらかじめ教えて
おけ……っ





ここで娼婦でいると
いうことは心身ともに
男にとって極上で
なければならぬ

そのための準備として
身体に『適切』な処置が
施されていく

まずその第一段階が
全身に媚薬を塗り
たくっていくと
いうものだった

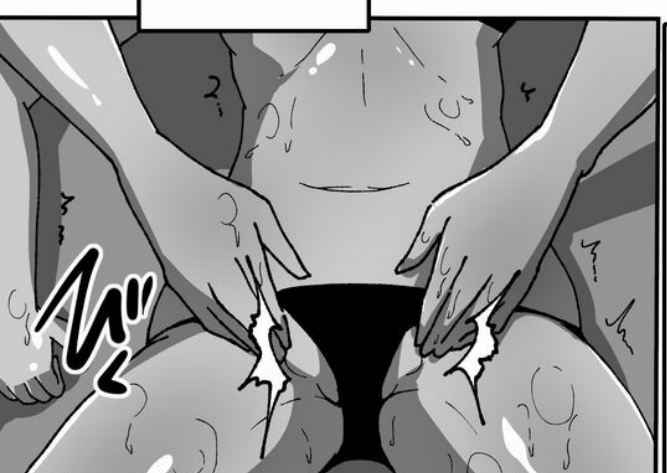
しかもそれは一回で
終わるようなものでは
ない
定期的に塗布が
繰り返されていく



定期的、といっても
その間は5分しかない

しかし塗られた媚薬は
その5分の間に
肌に完全に浸透し
乾いてしまっていた

そしてこやつらは
絶対に鋭敏な箇所には
媚薬を刷り込むことは
しない



乳首や秘部には
媚薬を垂らし塗るだけに
とどめておくのだ



はじめの一日
つまり塗布の三百回は
どうにか耐えた



しかし、身体が発情して
いった二日目の塗布



性感帯でもなんでも
ない箇所であんなく
本気アクメを
迎えてしまっていた



わしが何度イこうと
おかまいなしに、だ



しかしそんなこと
関係なしに薬の塗布は
機械的に施され続けた



潜入している
身の上だ



まともに抵抗も
許されない



霊力でわづくと
いうわけにもいかず



快樂をただただ
受け入れるしか
なかった



ほんの少しの刺激で
アクメしてしまう
立派な娼婦に仕立てられて
しまった



しまいには
子宮に少しの刺激が
あるだけで無様に
アクメさせられた



こうして薬の塗布は
一週間もの間続けられた

だが、これだけで
娼婦調教は
これで終わりでは
なかった



むしろここからが
本当の地獄だった

お、おいっ
なにをする
つもりじゃっ

む

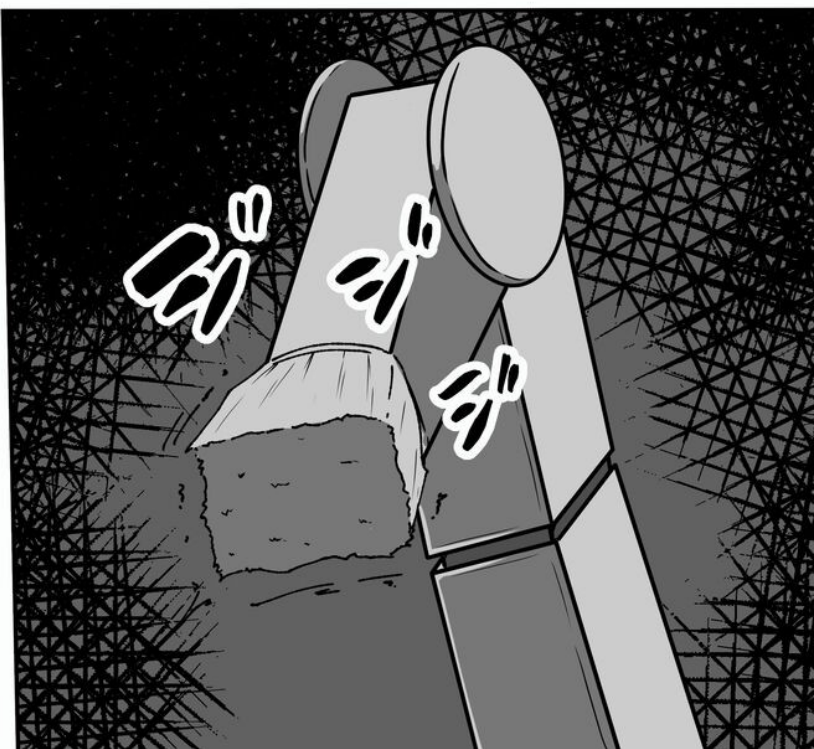
む

む

む



ま、まさかっ
ま、待てっ！
ちよ……ッ！



む

む

む





今まで刺激を
与えられて
こなかったとはいえ

薬が徹底的に
染み込んでいたことに
変わりはない



わしは一瞬も我慢する
ことができなかった



元々鋭敏な
乳首と



絶対的な性感帯の
クリトリスを責められ

淫紋の刻印だ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

ん
ん


ん
ん

ん
ん

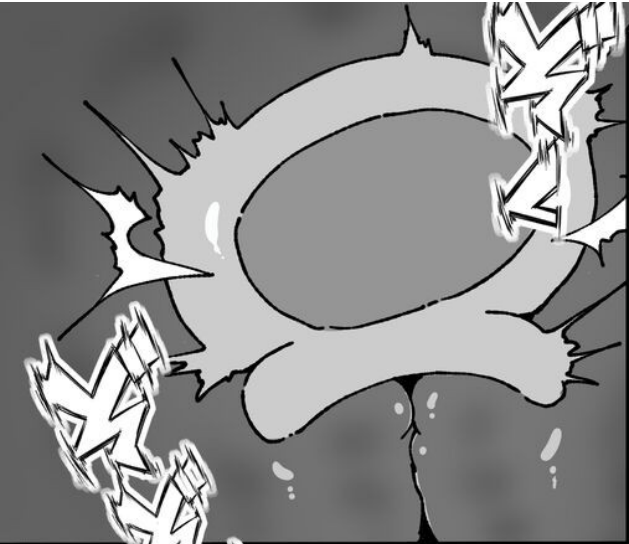
ん
ん
ん

ん
ん
ん






刻印する際の
快感は凄まじく




自分では制御できない
ほどの発情に襲われる



どうにか耐えようと
試みたが



刻印開始数秒で
その意志も粉碎
されてしまった



そうして刻印が完成し
身体が完全屈服した頃

子宮を少し揺さぶられるだけで
本気アクメを極めてっしまうほど
淫乱な身体に作り変えられていた

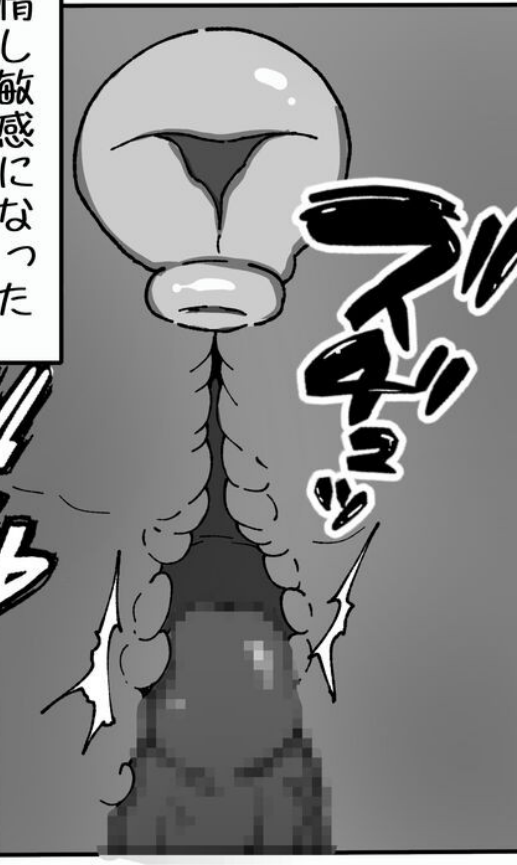


そんな状態で
今度は肉棒の触手で
膣内をほぐされていく

発情し敏感になった
わしが耐えられる
はずもなく



一瞬で絶頂まで
おしあげられてしまう





も、もうっ
無理じゃっ

二日目には
必死に許しを
乞っていた

ゆ、ゆる、じっ

も、もうっ
我慢っできっなっ

しかし、それでも
快樂調教が終わる
ことはない

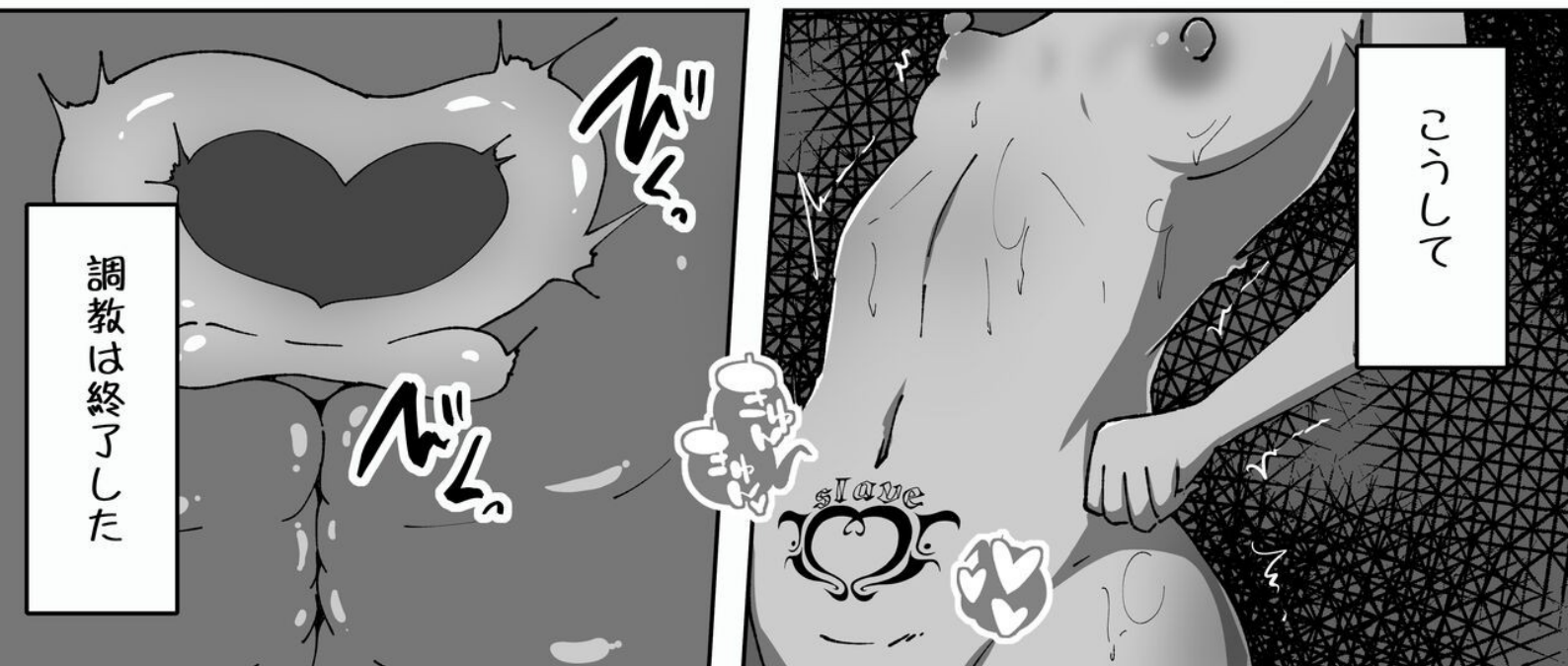
一週間も経過する頃には
身も心も娼婦として
完成させられていた

性交のことだけで
頭が一杯で任務のことは
完全に霧散してしまっていた



こうして

調教は終了した



この日から
寢室があてがわ
れたが……

それでも休息する
ことはできない
寝るためには
さらなる快樂調教を
強いられた

おん



触手に自ら身体を預け
寝ている間延々と
快樂調教を続けられる

こうしてわしは
接待の相手を
待ち続けることとなった
のであった

